

## 手も足も出なかった米国マウント・レーニア 敗退記

2006年7月 with 山なかまシリウス (個人) 5人



(High Lakes Trail (Paradise) から見た Mt. Rainier 4392m。僅かな雲の切れ目から頭を見せた。  
長年夢見て来たとうりの、堂々としてかつ気品ある山容であったが・・・)



(どっしりと大きいマウント・レーニアと山頂部に掛かる笠雲 パラダイス上部から撮影)



Mt. Rainier の南側の登山口パラダイスからハイキングトレールを登りきったパノラマポイントと呼ばれるビューポイントから見るマウント・レーニア峰は神々しいくらいに堂々と聳えていた。真正面にはニスカリー氷河の壮絶な崩壊跡やセラックが林立し、時折セラック崩壊による雪崩のド〜ンという轟音も聞こえた。見上げると、ここからは雪の斜面がどこまでも上へ上へと続いていた。

背中中のザックを下して休憩した途端に気が萎えて、ザック容量 70 リットルがパンパンに張った 25kg の目方のザックを再度担ぐ気力が失せてしまった。

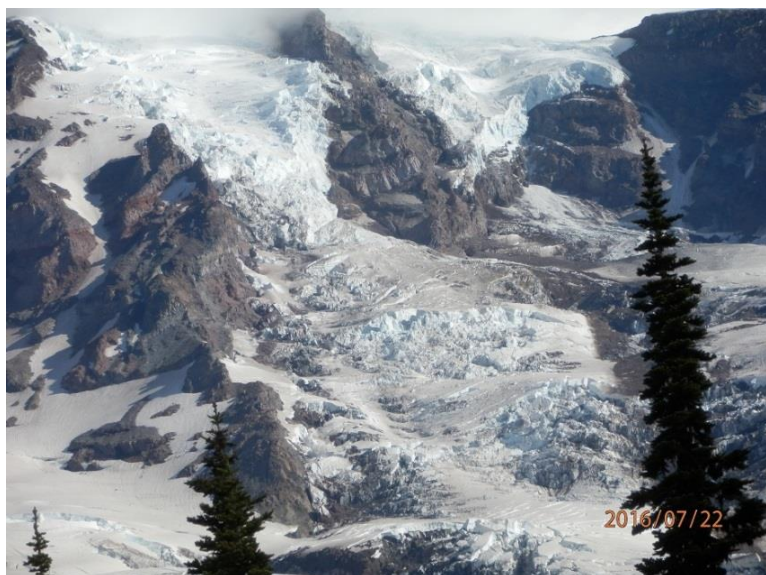
5 人パーティーの内の 3 人は少し上を先行しているが、一緒に歩いていたフルバさんも疲労困憊の態で、「何も苦勞するために登って来たのではない。ここで登山はやめてハイキングに切り替えようではないか」などと意気が上がらない。小生も、この有様では山頂まで登り着くことは到底不可能で、この先いずれどこかの地点でリタイアすることは必至であるが、せめて C2 予定ポイントのイングラハム・フラッツ 3,330m までは登ってみたいと思うが、何様この目方のザックを担ぐ体力のみならず、その気力もどこかに失せてしまって、フルバさんのご意見を多としてアッサリとここでリタイア宣言をしてしまった次第。

3 年前のグランド・ティートン行の頃から温めてきたマウント・レーニア登頂の夢はかくして簡単に散って、「(海外登山は)これが最後になりました」と言わざるを得ない結末と相成った。3 年間の夢がたった数時間で潰えてしまったことは、返す返すも残念至極なことではあるが、逆に言えば、体力のみならず気力の方も、もはやそのような状態に成り下がったと解釈すべきであろう。

因みに、今回の登山計画は、我がパーティーの平均年齢 75 歳を考慮して、アメリカのガイドブック記載の標準タイムの 2 倍の行程で計画したのだが、それでも我々には足らなかったのである。

登高に時間を掛ければそれでよいというものではなく、日数が多くなればなるほど食料や燃料の必要量も増え、また、山中でのテント泊の日程も多くなるのでその分疲労も増えるという二律背反となるので落としどころが難しい。また、氷河の崩落やクレバスの崩壊、ミックス帯の落石などもあり、このような地帯を雪が未だ固まっている午前中に急いで通過する必要などもあって、一概に時間を掛けて登ればよいという訳にはいかないのである。

この山は、ヒマラヤのジャイアンツなどに比べれば低山であるが、米国本土では氷河のスケールが一番大きい山で、下の写真でも分かるように、それだけ全体として厳しい山であるとも言えよう。



(上) 登山口パラダイスでのザック

目方は 25kg 近くも？

(下) 出国時のザック 2 ケ。ロープや

登攀具、BC 用大型テントも入っていたので合計で 40kg 近くに

(ニスカリー氷河の壮絶な崩壊とセラック)

さて、マウント・レーニアは、米国ワシントン州にある独立峰で、日系移民からは「タコマ富士」と呼ばれて親しまれてきた秀麗な 4392m 峰である。ロッキー山脈と併走してワシントン州からカリフォルニア州までの北米太平洋岸を南北に走るカスケード山脈の最高峰であり、マッキンリーを除いて米国では氷河の規模が一番大きく、また氷河の数も一番多い山でもある（大小合わせて 25 本の氷河がある）。

因みに、カスケード山脈とは、ワシントン州北端のカナダ国境にある Mt. Baker (3286m) に始まり、ワシントン州の Mt. Rainier (4392m)、Mt. Adams (3743m)、1980 年に大噴火し山体が 1/3 吹き飛んで標高が 400m も下がった Mt. St. Helens (2550m)、オレゴン州の Mt. Hood (3429m)、Mt. Scot (2721m) を経由して、カリフォルニア州の Mt. Jasta (4317m) で終わる長さ約 1 千キロの中級山脈である。

マウント・レーニアは州都シアトルから約 400km の南南東、車で約 4～5 時間程の位置にあり、周辺は約 1000 平方キロのマウント・レーニア国立公園となっていて、その殆どは氷河、草原、原生林で、集落や民家は全く無い山中である。

前述したように、標高はそれほど高くないが、アラスカのマッキンリーを除いて全米一の氷山を纏っているのは、北米西海岸の独立峰であるから、大平洋からの湿った風がもろにこの山にぶつかって冬期に大量の降雪をもたらすためである。

レーニア峰登頂を目指す登山者は毎年 1 万人程であるが、登頂率は 2～5 割程度である（主な原因は暴風雪などの悪天候）。登山口は 4 つあり、登頂ルートは難易合わせて 40 本ほどある。

今回我々が選んだルートは、マウント・レーニアでは一番ポピュラーで易しい「ディサポイントメント・クリーバー」（敢えて訳せば「肉切包丁尾根」を登って見たら、山頂は未だ未だ先だった。

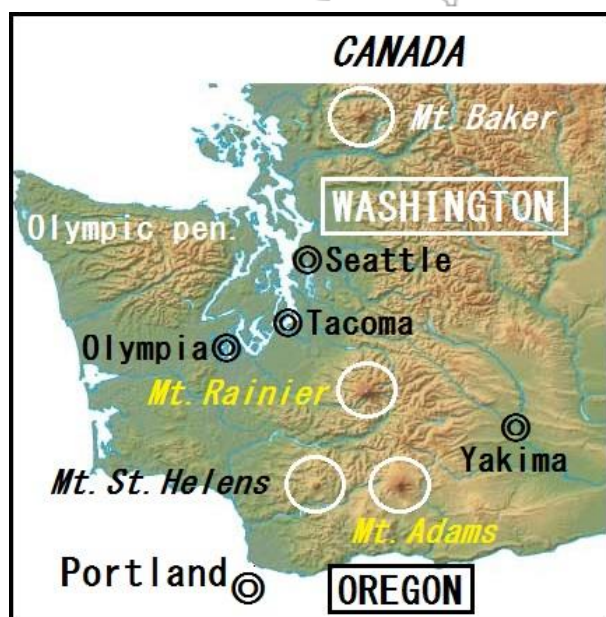
ジャ〜ンネン」というニュアンス）。現地ガイドブックでの標準所要日数は 2 泊 3 日。1 泊 2 日で往復する元気印の若者も。マウント・レーニアの登山者数はシーズン中に約 1 万人（登頂者はその数割）であり、現地ガイド会社に照会したところでは、70 歳以上の登山者は数十人に満たないとのことであった。我々はガイドパーティーで要求される歩行速度に付いて行けないので、初めからガイドレスで計画した。

我々が作った計画は以下の 3 泊 4 日行程である。泊まりは全てマイ・テント泊。詳細は資料集参照。

- ① 1 日目＝パラダイス 1,650m～ミューア・スノーフィールド 2,700m（上り 6～8 時間）
- ② 2 日目＝ミューア・スノーフィールド～イングラハム・フラッツ 3,330m（上り 6～8 時間）
- ③ 3 日目＝イングラハム・フラッツ～マウント・レーニア山頂 4,392m 往復～イングラハム・フラッツ（往復 10 時間）
- ④ 4 日目＝イングラハム・フラッツ～パラダイス（下り 6～8 時間）

上記の日程表で初日の①さえも半分の行程も行けなかったことが涙がちょちょ切れるところであり、ウン十万円の経費と、足掛け 3 年に亘る資料の収集及び登山計画の作成、氷河アンザイレン登高、高度順応などの訓練ために富士山にも 4 回登った使用エネルギー総コスト量からすれば、今回のコスト・パフォーマンスの数值は限りなく零に近いが、マ、下山後に種々のハイキングや観光や見学ができたことを考えれば、マ、トイトイと考えてよからう。

リタイアした地点は、一般のハイキングコースの終点になっていて、重装備の登山者に混じって次の写真右端のようなミニスカートのネエちゃんも沢山遊んでいたのが悲しいと言えば悲しいのでア〜ル。







さて、リタイアしたはよいが、下山口のパラダイスからテントを張りっぱなしにしてある BC、クーガーロック・キャンプ場までの足が無い。パラダイスまでは 5 人でレンタカーで来たのであるが、レンタカーは我々は運転できず（駐車場に置いているレンタカーは勿論キチンと施錠して山に入ったので、鍵を持っていない我々が入ることもできず、鍵を持っている他の仲間がいつ下山するかは携帯が繋がらないので連絡の取りようも無し）、我々には指を咥えて眺めるだけのシロモノ。3 年前のグランド・ティートン国立公園では、公園内のキャンプ場などを巡回してくれる乗合バスがあったが、このマウント・レーニア国立公園内にはバスなどの公共交通は全く無い。パラダイスから BC までの山道は 7km あり（ウネウネした車道は 20km もある）、通常の足でも 3 時間くらいかかる。今の重荷の我々では 6 時間以上掛かる。体力を使い果たしている我々は途中でくたばってしまうのは目に見えている。衣食住は全て持っているの、どこかにテントを張れる場所があれば、そこに幕営もできるのであるが、生憎パラダイス近辺は全てキャンプ禁止区域であり始終レンジャーが巡回している。また、夕闇に乗じてこっそり隠れてテントを張れるような平地も全く無い。

ビジターセンターでタクシーを呼べないかと聞くと、固定電話が通じているので呼べないことはないが、タクシーは遥か下界のタコマにしかないの、タクシーが来るまでに 3 時間は掛かり、おまけに迎車料金も含めたタクシー代は見当がつかないが（即ち見当もつかないほどの高額）、今すぐ呼ぶかとのたまって電話機を取り上げようとした。

オイオイ、ちょっと待ってくれ。計画作成の段階でシアトルの空港からマウント・レーニアへ入る足を検討した時、レンタカーではなくタクシーで入る案も検討したので、その時の記憶から計算すれば、タクシー代は 1,000 ドル近くになりそうだ。これではタマラン。御名御璽。

すっかりマイってしまっ、ビジターセンターのカフェでビールでも飲みながら考えるかと、ジンジャエールのフルバさんと話している内に、そうだ、何とかヒッチハイクができないかと思いついた。荷物は大きくて重いし、汚い恰好はしているしで、普通の観光客の自家用車にはお願いしにくいし、頼んでも乗せてくれないであろう。さすれば、どうすれば良いか？

曰く、山登りの連中の車なら同士のよしみで乗せてくれるのではないかと。また曰く、ガイド会社のバンが何台か駐車しているが、彼等なら気安く同乗させてくれるのではないかと。



（リタイア大勇断後の安堵感からか、ゆったりと構えるフルバさん。缶ビールはレーニア印（R 印）のご当地ビール）

しかしながら、フライパンの底のような炎天下の駐車場でいつ下山してくるかも分からないこれらの車を待ち続けると、これはもう熱射病で死んでしまうこと必定。

アッ、今思い付いたが、工事車両や荷物運搬のトラックなどなら如何であろうか。こうなったら、恥も外聞もなく、運転者のオジサン・オバサンを拝み倒して、何としても乗せてもらうしかない。重い荷物を担いだまま焼けたフライパンの底で、乗せてくれそうな車種と優しそうな運転者のオジサン・オバサンが通り掛かるのを待ち続けるのは、もう灼熱地獄の苦しみであった。

駐車所の出口で1時間ばかり待ったであろうか。たまたま小型トラックが出てきた。ヨシッ、これだア!!今しかない!! 覚悟を決めて手を振ったら、実直そうなオジサンが運転席から降りてきてくれた。事情を説明したところ、座席は家族で埋まっているようであったが、荷台でよければ乗れと言ってくれた。ア〜ア、これで助かった。アメリカのトラックは小型でも荷台が高い。重いザックを荷台に上げることはおろか、我々も上がることさえできない。親切そうなオジサンは態々荷台に上がってきて荷物や我々を荷台に引き上げてくれた。オジサンはどこかの農園主のようだった。

ヘアピンカーブ連続の道を時速 100km くらいで走る車の荷台は、カーブで振り落とされそうになったり、風に吹き飛ばされそうになったが、そんなことは言っておられなかった。必死に荷台の枠に縋りついてた。アメリカのトラックは荷台に人を乗せても良いらしいが、路傍で道路工事の重機の運転手が“Emergency? Whats happened?”と我がトラックの運転者に叫んでいたのも、アメリカでも滅多に人を荷台に乗せることはないのかも知れない。



(小型トラックの荷台に乗せて貰って・・・アメリカ弥次喜多道中 左：フルバさん 右：筆者)

山道を1時間半くらい走って、我がパーティーの女性トレッキング班が泊まっているロングマイアのホテルの玄関前に車を停めてくれて、荷物もオジさんが降ろしてくれた。オジサンと指が折れるくらい固い握手をして深甚なる感謝の意を表したが、オジサンの優しい心根に、涙目になった我が目からは涙が止まらなかった。遠い異国の旅の空の下でのこのオジサンの親切心は生涯忘れられないものになるであろう。

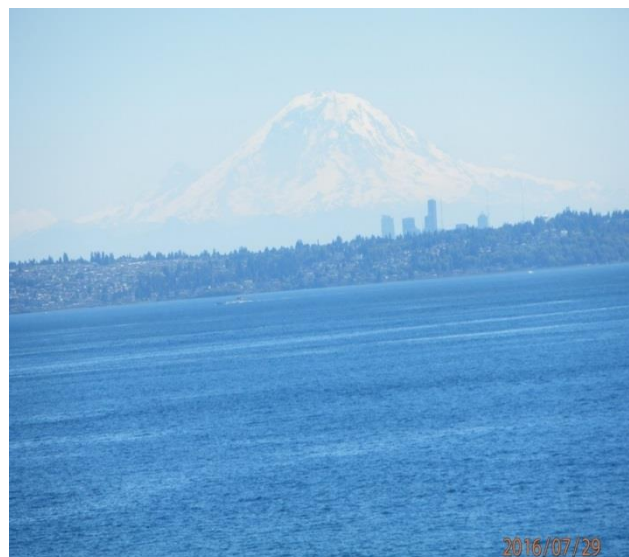
マウント・レーニアの登山自体については、これ以上登っていないので登山の様子についてはこれ以上書くネタが無い。パラダイスの下方にあるレフレクション・レイクに映っていた逆さレーニア峰、下山後オリンピック半島へ渡るフェリー上からピューゼット海峡を隔てて見えた海からの山容と、帰りの機内から見た空からの鳥瞰、及び登山許可証／下山届のコピー、今回予定したルート図(Disappointment Cleaver ルート)等を掲げてお茶を濁すこととしたい。

ご参考までに、これからこの山を志す方々のために、この山の“ガイド登山 VS ガイドレス登山”の検討、“ロートル組でも登れる可能性を検討したガイドレス登山やルートの検討”、シアトルからのアプローチ、キャンプ場情報などの登山情報を稿末に掲げておく。こちらはマジメ＆正確?な資料である。

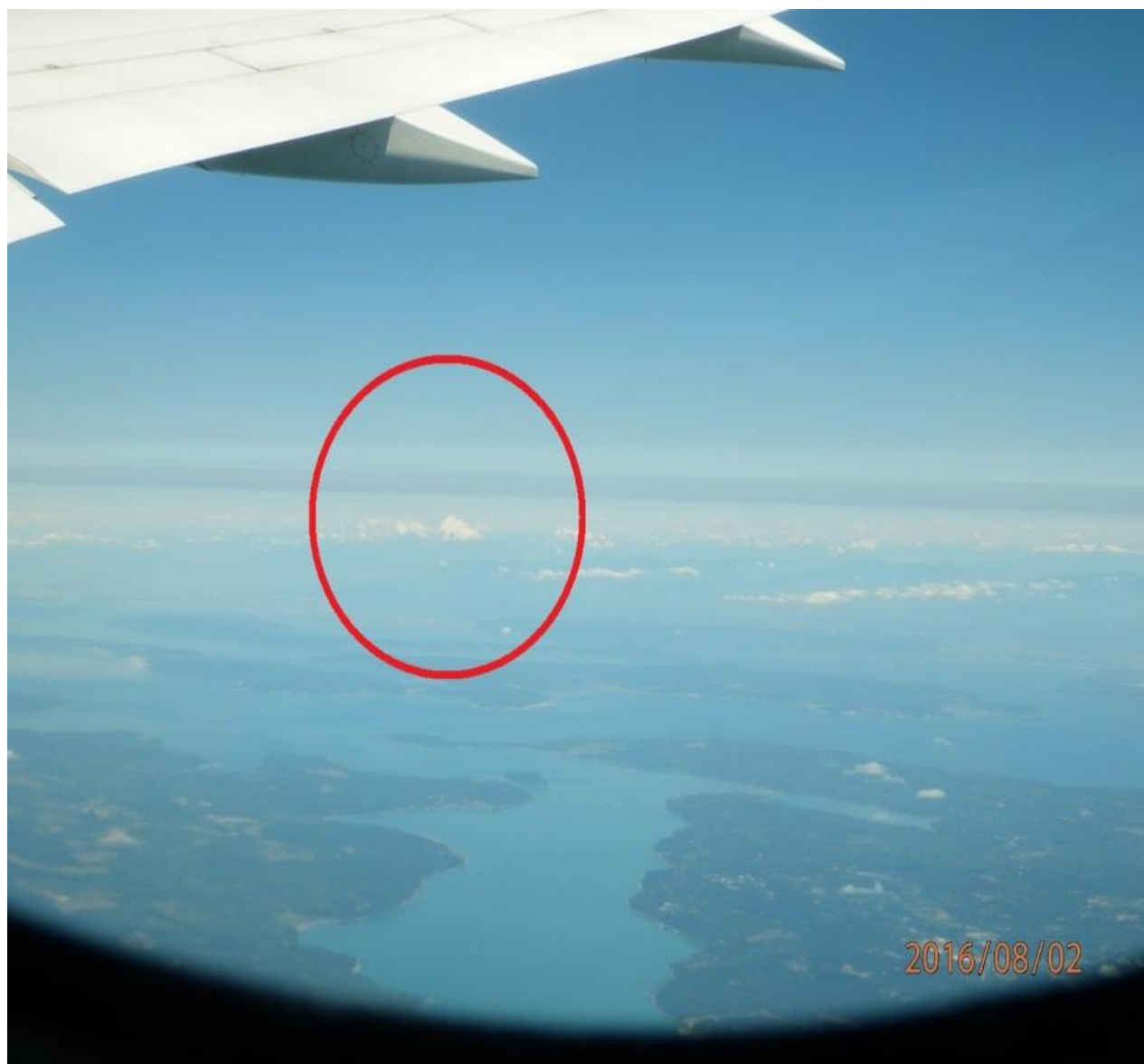




(リフレクション・レイクに映っていた逆さレーニア峰)

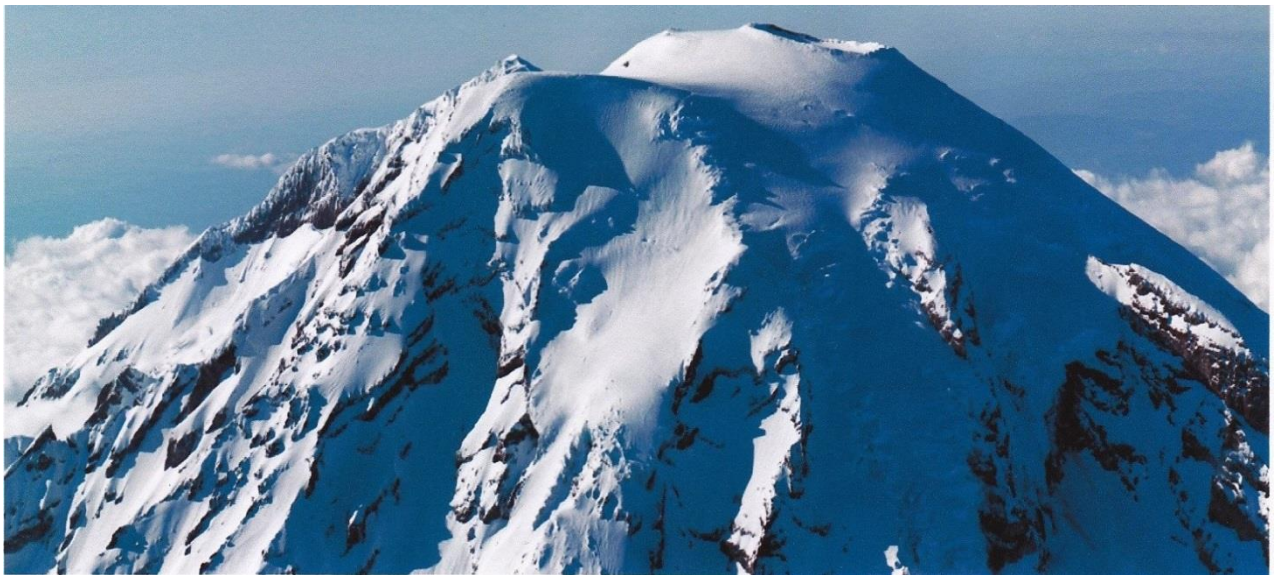


(オリンピック半島に渡るフェリーからピューゼット海峡を隔てて見たレーニア峰。山容が大きい。手前の高いビル群はシアトル市街のスカイスクレーパー)



(Sea-Tac 空港を離陸した飛行機から見たマウント・レーニア峰。左右に見える雪山の連山はカスケード山脈。手前はキットサップ半島と内湾)





(現地 Mount Rainier 国立公園局のHPに掲載されていた山頂付近の写真。山頂はお鉢)



(このようにアンザイレンして登るハズであったのだが・・・現地ガイド会社のHPより引用)

登山計画作成の最終成果物でもある登山許可申請書（現地レンジャーステーションに文書で提出。バックカントリーのキャンプ許可も同時に受ける）、及び、実際の登山行為の成果を示す下山届を次ページに掲げて置く。登山許可申請書の右側の半ペラが登山許可証兼下山届であり、我々の“Number to Summit 0(non)”というのが泣けてくる（先行の3人は初日には予定のミューア・スノーフィールドまで登って幕営したが、翌日は風雪のためキャンプ・ミューアまでの往復でリタイアして来た）。



登山許可申請書

登山許可証兼下山届

WPS# \_\_\_\_\_ Special Use Permit for Travel on Glaciers and In Database \_\_\_\_\_  
 # in Party: \_\_\_\_\_ Climbing Above 10,000 Feet on Mt. Rainier  
 (Maximum 12)  
 I am Leading ☒ An Independent Party ☐ A Non-Profit Group ☐ A Commercial Climb

**Leader Info**  
 Name: Tadahiko Ohtsuka Age: 73  
 Address: 1-6-7-101 Tsujidou-Nishikaigan  
 City: Fujisawa City, Kanagawa Pref. Japan State: JAPAN Zip: 251-0046  
 Home Phone: (+81) 466-31-3825 Work Phone: \_\_\_\_\_  
 Emergency Contact: +81 466-31-3825 Phone Number: (+81) 90-5775-0203 cellular

**Vehicle Info:**  
 Make: DODGE Color: white License: AZF State: OREGON  
 Make: \_\_\_\_\_ Color: \_\_\_\_\_ License: 6495 State: \_\_\_\_\_  
 Location Vehicle(s) Parked: Lower Parking Lot, Paradise

**Climbing Route Info:**  
 Route Ascending: Disappointment Cleaver Route Descending: Disappointment Cleaver  
 Departure Date: 21 July 2016 Return Date: 24 July 2016

**Personal and/or Team Equipment:**  
☒ Crampons(#): \_\_\_\_\_ ☒ Map/Compass: \_\_\_\_\_ ☒ Stoves(#): \_\_\_\_\_  
☒ Ice Axe: \_\_\_\_\_ ☒ GPS: \_\_\_\_\_ ☒ Fuel(#days): 4 days  
☒ Ropes(#):  $\phi 8 \times 30m \times 2$  ☒ Altimeter: \_\_\_\_\_ ☒ Food(#days): 4 days  
☒ Asc/Prussiks: \_\_\_\_\_ ☐ Radio(type): \_\_\_\_\_ ☒ Wands(#): \_\_\_\_\_  
☒ Pickets(#): \_\_\_\_\_ ☐ Skis/Board: \_\_\_\_\_ ☐ Avy Beacon(#): \_\_\_\_\_  
☐ Ice Screws(#): \_\_\_\_\_ ☐ Tents(# - Color): \_\_\_\_\_  
☒ Helmets: \_\_\_\_\_ ☐ Cell #: \_\_\_\_\_

I have read, understand, and will comply with the regulations on the back of this card.

Leader Signature: T. Ohtsuka Date: 20 July 2016

fee envelope #s: \_\_\_\_\_

**LIST ALL ADDITIONAL PARTY MEMBERS**  
 (Maximum party size: 12)

| Name                   | Emergency #        | Rainier Summits / Routes | Climbing Pass # |
|------------------------|--------------------|--------------------------|-----------------|
| 2. Harumi Akazawa      | (+81) 48-771-3583  | D.C.                     | 7761            |
| 3. Hiroshi Furubayashi | (+81) 3-3906-1839  | D.C.                     | 7762            |
| 4. Minoru Tsukamoto    | (+81) 42-635-1441  | D.C.                     | 7763            |
| 5. Tatsuto Kawachi     | (+81) 90-9241-8267 | D.C.                     | 7764            |
| 6.                     |                    |                          |                 |
| 7.                     |                    |                          |                 |
| 8.                     |                    |                          |                 |
| 9.                     |                    |                          |                 |
| 10.                    |                    |                          |                 |
| 11.                    |                    |                          |                 |
| 12.                    |                    |                          |                 |

OFFICE USE ONLY

Date \_\_\_\_\_

Registered by PL  
 Office/Station CIC  
 WPS # 91514 # in party 5

**CLIMBERS SPECIAL USE PERMIT**  
 (Party leader completes & carries this portion)

Leader's Name Tadahiko Ohtsuka

| ITINERARY             |      |                |
|-----------------------|------|----------------|
| NIGHT                 | DATE | CAMP           |
| 1 <sup>st</sup> night | 7/21 | Muir Snowfield |
| 2 <sup>nd</sup> night | 7/22 | Flat S         |
| 3 <sup>rd</sup> night | 7/23 | Flat S         |
| 4 <sup>th</sup> night | 7/24 | out            |
| 5 <sup>th</sup> night |      |                |

**IMPORTANT:**  
 Complete this section upon return to CHECK OUT

Number Out: 5  
 Number to Summit: 0 (non)  
 Route: Disappointment Cleaver  
 Date Actually Returned: 7/22  
 Comments: The pack weight's heavy beyond exp.

**Regulations**

When climbing above 10,000 feet or on glaciers:

- Registration (this card) is required.
- Solo climbing is prohibited without written permission from the Park Superintendent.
- You must be at least 18 years of age or have written permission from a parent or guardian.
- Leading or participating in an unauthorized guided climb of Mount Rainier is illegal.
- Camp on snow. Avoid rock or bare ground where plants struggle for life.
- Where toilets are not available, use "Blue bag" carryout system.
- Climbers may be required to pay for search, rescue or recovery costs.
- Leave no trace - Pack it all out.

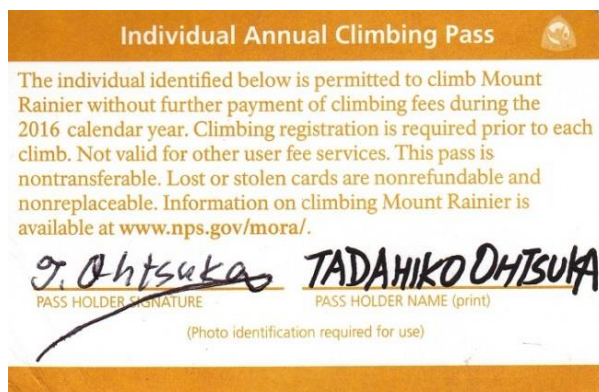
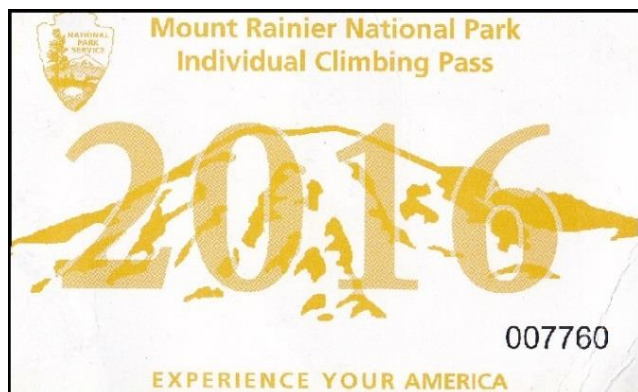
When camping on the Muir Snowfield:

- CAMP ON SNOW ONLY**
- 100% OF ACTIVITY ON SNOW**
- Camp between 7,600 AND 9,600 ft.

Violations may result in fines and/or forfeiture of climbing privileges.

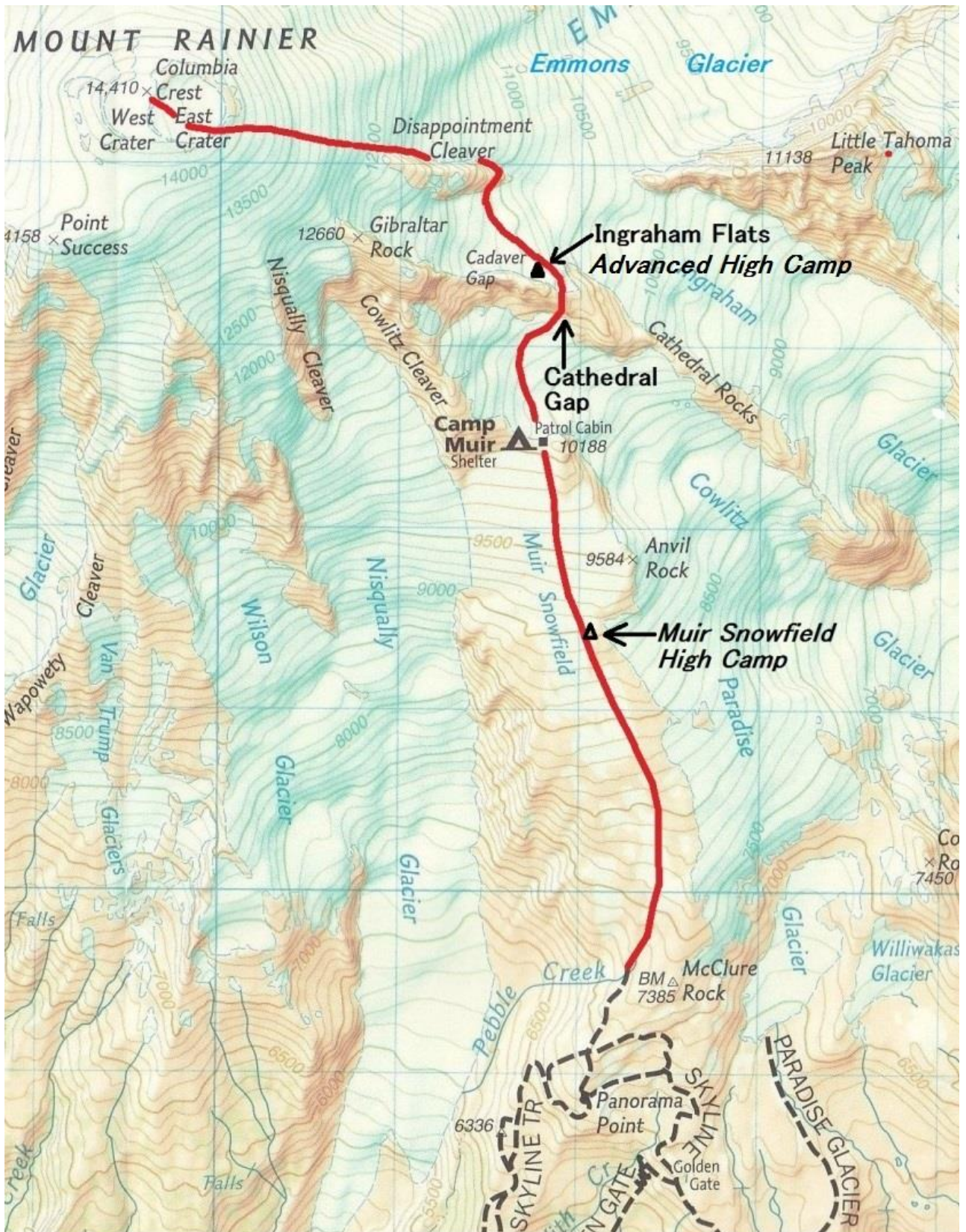
Registered by (initials): PL

なお、レーニア峰への登山許可申請の際には、登山料の支払いが必要である。年間パスになっていてUS\$46。1回限りでも同額。私の下記のパスの番号は007760であり、7月20日の時点で既に8千人近い登山者が入山していることが読み取れる（左：表面、右：裏面）。





今回の計画ルート (Disappointment Cleaver ルート)



登山口 パラダイスへ ↓

(本文はここまで)

Mt. Rainier 登山検討資料一覧は次ページ参照

## **Mt. Rainier 登山検討資料一覧**

「Mt. Rainier をガイドレスで登れないか？登れるとするとその要件は？」(2012 年)

「Mt. Rainier 登頂検討用資料」(2016 年)

「Mt. Rainier の登頂ルートについて」(2012 年)

「Mt. Rainier 登頂におけるガイドの利用について」(2012 年)

「登頂ルート抄訳 (Mike Gauthier. *MOUNT RAINIER A CLIMBING GUIDE*, 2005 より抄訳) (2016 年)

「氷河登高とセルフレスキュー」(2016 年)

「氷河アンザイレン・タイイン法」(2016 年)

「シアトルから Mt. Rainier までの机上走行シミュレーション (Google Earth)」(2016 年)

以上の参考資料は、『遥かな山々 私の山旅・海外編』の「米国マウント・レーニア参考資料集」のページに掲載しています。[⇒この参考資料集にジャンプ](#)

「手も足も出なかった米国マウント・レーニア 敗退記」 完

[⇒「遥かな山々 私の山旅・海外編」目次に戻る](#)